

研究種目：特定領域研究

研究期間：2005～2009

課題番号：17083030

研究課題名（和文）前近代中国の中央・地方・海外を結ぶ官僚システム

研究課題名（英文） Official System that Connected the Central Government to the Regional Society and Abroad in Pre-modern China

研究代表者

平田 茂樹（HIRATA SHIGEKI）

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：90228784

研究成果の概要（和文）：

前近代中国の諸王朝が如何なる官僚システムを駆使して中央、地方、海外を結び、皇帝支配体制を実現していたかを検討した。その結果、到達したのは次の四点である。（1）中国の政治空間が他の社会とどのように異なり発展していったかを明らかにした。（2）政治史料がどのような背景で作成され、読まれ、流通していくかという動的な史料読解法を確立した。（3）広義の外交文書に着目することにより、様々なレベルで外交交渉がなされ、その総体として東アジアの国際関係が進展していく構造を明らかにした。（4）東アジア海域世界の歴史を三期に分け、海防、交易の歴史を検討し、その力学がどのように展開するかを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

We undertook analysis of what kind of bureaucratic system was used to achieve the emperor governing system by connecting the central government, regional government, and overseas in the dynasties of pre-modern China. Based on the analysis, we achieved the followings; 1) we revealed how differently the Chinese political place had developed compared with the other societies. 2) we managed to discover a dynamic reading methodology of historical materials to understand the background of how they were produced, read and circulated. 3) We paid attention to the diplomatic documents in a broad sense. As a result, we revealed that the international relationships in East Asia had developed as an overall effect of diplomatic negotiation at various levels. 4) We divided the history of the ocean area of East Asia as three era, and based on this division, we examined the history of coastal defense and trading and revealed how the power relationships changed during the course of the history.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	8,500,000	0	8,500,000
2006年度	8,500,000	0	8,500,000
2007年度	8,500,000	0	8,500,000
2008年度	8,500,000	0	8,500,000
2009年度	8,500,000	0	8,500,000
総計	42,500,000	0	42,500,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：官僚システム、外交、貿易、海防、空間

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、かつて文書システム研究及び文献資料研究に於いて科学研究費補助金を受けている。

前者については「日記、時政記史料から見た宋代政治構造」(科学研究費補助金基盤研究C、平成12-14年度、310万円)を受け、宋代の宰相・執政が書いた公的日記「時政記」と私的日記とを通して、宋代特有の「対」及び「御筆」といった政治システムがどのように具体的な政治過程で用いられるかを分析した。この一連の研究の中で、政治史料がどのように編纂されていくのか、またその史料がどのような事実を捉える上で有効なのかが明確なものとなってきた。

後者については岡元司代表「宋代以降の中国における集団とコミュニケーション」(科学研究費補助金基盤研究B、平成14-17年度、1190万円)の資金援助を受け、日記、墓誌といった従来余り使われていない私撰史料を通じて政治的ネットワークを解析する試みを行った。この成果については“宋代墓誌銘史料の文本分析と実証運用”国際会議、於台湾東呉大学歴史学系、2003年10月、2004年の第37回 The International Congress of

Asian and North African Studies (通称 ICANAS)、18回 The International Association of Historians of Asia などにおいて内外の研究者と共同パネルを設け、報告を行った。これらを通じ、海外の研究協力者との共同研究を進める機会が開かれることとなった。

この他、鹿島学術振興財団助成金「中国宋代に関する現存史料の活用方法についての研究」(代表：東京大学人文社会系研究科・小島毅、平成11-12年度、800万円)、三菱財団助成金「宋代文献資料解析方法の研究」(代表：小島毅、平成11-12年度、300万円)の助成金を得ている。これらの助成により、2000年モンテリオールで開催された第36回 ICANASへの参加、およびハーバード大学・カリフォルニア大学ロサンゼルス校でのシンポジウムの開催をおこなった。この共同研究の成果を経て、その後の新しい政治史分析法を提起する方向が確立することとなった。

これら一連の研究活動については連携研究者の井上徹、久保田和男が参加しており、この時点より、既に中央-地方-海外をめぐる中国官僚システムの新たな方法論を探る取り組みを共同研究という形で進めている。

## 2. 研究の目的

本研究は、前近代中国の諸王朝がどのような官僚システムを駆使して中央、地方、海外を結び、皇帝支配体制を実現していたかを比較検討することを目的とする。具体的には、これまで用いられてきた官撰史料に加えて、新史料の発掘、蒐集に努めつつ、首都を定点として、地方、海外を皇帝支配体制がどのように結んでいくのか、文書、交通システムに目を向けると共に、杭州、明州（寧波）、福州、泉州、広州などに置かれた市舶司を中心に、海外の窓口となった官僚機構を同時に分析し、官僚システム網を解明する。とりわけ、後者については浙江、福建、広東など海外の窓口となった沿海部の特殊官僚機構の分析にとどまらず、そこに介在する商人、有力者層などの分析を通じて、東アジア海域に共通する社会の特質を解明する作業にもつながることとなる。

## 3. 研究の方法

研究代表者および連携研究者が集まる研究集会を年数回開催する。ここで各研究者の研究進捗状況を確認するとともに、研究課題の相互調整を行って、それぞれの課題が有機的に連動するよう最終的な調整を行う。各年度末には「政治空間」、「外交」、「海防」、「貿易」を共通テーマとしたシンポジウムを開催し、新たな研究方法、研究視角について検討を行う。これらの成果については逐次、学術雑誌に公開し、最終年度においては当該課題の総括を行う。

## 4. 研究成果

### (1) シンポジウムの開催

「政治空間を如何に読むか」(2006. 11. 25 於大阪市立大学)

「政治・制度史料における文献資料学の新たな可能性」(2007. 1. 13 於

大阪市立大学)

「東アジアの国際交流と中国沿海部の交易・交通・海防」(2007. 1. 14 於大阪市立大学)

国際学術ワークショップ“唐宋時期的文書伝通与信息溝通”(2007. 9. 28 於北京大学)

「東アジア海域世界における交通・交易と国家の対外政策」(2008. 2. 3 於大阪市立大学)

国際宋史研究会暨中国宋史研究第十三届年会の日中共同パネル“宋時期的文書伝通与信息溝通”(2008. 7. 30 於雲南大学)

国際シンポジウム“古代中国国家運用機制”(2009. 3. 8 於中山大学)

「外交文書から見た東アジア海域世界」(2009. 7. 4 於大阪市立大学)

「東アジア海域における国際交流と政治権力の対応」(2009. 7. 5 於大阪市立大学)

### (2) 研究報告書の刊行

『大阪市立大学東洋史論叢』別冊特集号「文献資料学の新たな可能性2」(2007年)

『大阪市立大学東洋史論叢』別冊特集号「文献資料学の新たな可能性3」(2007年)

『大阪市立大学東洋史論叢』別冊特集号「東アジア海域世界における交通・交易と国家の対外政策」(2009年)

『漢学研究』第27巻2号「宋代的訊息傳遞與政令運行專輯」(2009年6月)

### (3) データベースの構築

中村圭爾・室山留美子編『魏晋南北朝墓誌官職名索引』(2009年)

### (4) 研究成果

以上の研究活動を通じて、次のような知見を獲得することができた。

政治空間

今回の共同研究では、人と人との関係性やその関係性によってはぐくまれる社会秩序、文化、学問といった様々なものを含み込んだ空間(place)を意識することにより、中国の政治空間が他の社会とどのように異なり発展していったかを跡づけることができた。この成果は研究報告書の刊行の に示されており、漢民族と非漢民族と政治空間の差異、西欧、ベトナムなどとの政治空間の差異の問題が論じられている。

#### 政治史研究の方法と政治史料

この成果は研究報告書の刊行 に示されているほか、『大阪市立大学東洋史論叢』別冊特集号「文献資料学の新たな可能性」(2006年5月)にもその一端が現されている。ここでは政治史料として従来重要視されてきた正史、実録といった官撰史料を中心とした史料群以外にどのような史料が新たな可能性を有しているのか、そしてその史料をどのように読み解いていくのか、その方法論をめぐり議論が重ねられ、動態的観点からの史料読解法を見いだすことができた。

#### 外交文書を中心とした東アジア関係史

従来は国書を中心に東アジア関係史の研究が進められてきたが、本プロジェクトにおいては広義の外交文書に着目することにより新たな東アジア世界を読み解く作業が進められた。その結果、皇帝 - 国王間、中央政府間、地方政府間等々様々なレベルで外交交渉がなされ、その総体として東アジアの国際関係が進展していくのであり、従来の皇帝(国王)を中心とした外交史とは異なる国際関係史の世界が明らかとなってきた。

#### 交通・交易・海防を中心とした東アジア関係史

1250年～1350年の「ひらかれた海」の時代つまり中国史では南宋～元の時代には中

国では貿易が発展し、沿海地域も貿易の恩恵を受けて、経済的發展を遂げている。政治権力の関心は、特にこの時代が漢族と北方民族の対立が激化した状況に左右され、陸域の問題に傾いている。特に南宋はそうであり、交通、軍事の比重は圧倒的に陸域が中心である。1500年～1600年の「せめぎあう海」の時代は、中国では、ポルトガルが来航し、倭寇が東アジア海域を襲撃した時代であり、貿易は飛躍的に活発になったが、とりわけ倭寇は明朝が頭を悩ませた問題として浮上し、海防体制が国家の重要項目となった。1700年～1800年の「すみわける海」の時代は中国では清朝が維持した時代であるが、日本の自己規制と管理の強化により、倭寇問題は終熄し、日中間には国際関係上の安定がもたらされた。そして、中国、日本、沖縄、朝鮮と、東アジア海域の諸国の政治権力は海域への権力伸張よりも、陸域に足場を置いたそれぞれの国家の政治秩序の構築に力を注いでいった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

久保田 和男、「玉清昭応宮の建造とその炎上--宋真宗から仁宗(劉太后)時代の政治文化の変化によせて」、『都市文化研究』12、pp139-152、2010年、査読有り

平田 茂樹、「宋代文書制度研究的一个嘗試 以「關」、「牒」、「諮報」為線索」、『漢学研究』27-2、pp. 43-65、2009年、査読有り

中村 圭爾、「六朝における官僚制の叙述」、『東方学』91-2、pp.161-192、2009年

松本 保宣、「唐代の閤門の様相について--唐代宮城における情報伝達の一齣(その2)」、『立命館文学』608、pp. 149-168、2008年、査読有り

井上 徹、「明朝の对外政策と両広社会」、『大阪市立大学東洋史論叢別冊特集号 東アジア海域世界における交通・交易と国家の对外政策』、pp. 69-102、2008年、査読無し

山崎 覚士、「貿易と都市--宋代市舶司と明州」、『東方学』116、pp. 92-108、2008年、査読有り

平田 茂樹、「宋代の政治空間を如何に読むか?」、『大阪市立大学東洋史論叢 別冊特集号 文献資料学の新たな可能性 3』、pp. 219-243、2007年、査読無し

平田 茂樹、「宋代地方政治管見--笥子、帖、牒、申状を手掛かりとして」、『東北大学東洋史論集』11、pp. 207-230、2007年、査読無し

井上 徹、「中国近世の都市と礼の威力」、『年報都市史研究 15 <分節構造と社会的結合>』、山川出版社、pp. 4-18、2007年、査読無し

平田 茂樹、「日本宋代政治研究の現状と課題」、『史学月刊』(中国、河南大学) 308、pp. 95-102、2006年、査読有り

平田 茂樹、「宋代の日記史料から見た政治構造」、『宋代社会の空間とコミュニケーション』、汲古書院、pp. 29-67、2006年、査読無し

平田 茂樹、「『歐陽修私記』から見た宋代の政治構造」、『大阪市立大学東洋史論叢』別冊特集号、pp. 95-110、2006年、査読無し

松本 保宣、「唐の代宗朝における臣僚の上奏過程と枢密使の登場--唐代宮城における情報伝達の一齣(その1)」、『立命館東洋史学』29、pp. 1-42、2006年、査読無し

平田 茂樹、「政治史料から読み解く宋代の都市空間」、『アジア遊学』78、勉誠出版、pp. 85-103、2005年、査読無し

〔学会発表〕(計5件)

松本 保宣、「唐代宮城中の情報傳遞

與建築珽局的關係」、『文書・政令・情報通信』国際學術研討會、北京大學中國古代史研究中心、2010年3月27日

久保田 和男、「關於宋朝地方赦書の傳達 以出迎和宣讀為中心」、北京大學中國古代史研究中心、2010年3月27日

平田 茂樹、「日本宋代政治史研究之新可能性 与国家史、国制史研究の嘗試性對話」、新政治史研究の展望研討會、台湾・中央研究院歷史語言研究所、2009年8月26日

平田 茂樹、「如何解讀宋代的政治空間」、『唐宋時期的文書傳遞与信息溝通』国際學術工作坊(中国・北京大学)、2007年9月28日

平田 茂樹、「宋代の列女顕彰の構造 『宋史』列女伝を手掛かりとして」、韓国・中国史学会、2007年9月9日

〔図書〕(計4件)

平田 茂樹・遠藤 隆俊・岡 元司共編『宋代社会的空間与交流』、中国・河南大学出版社、375頁、2009年

井上 徹『中国的宗族与国家礼制-從宗法主義角度所作的分析』、中国・上海古籍出版社、361頁、2008年

中村 圭爾『六朝江南地域史研究』、汲古書院、640頁、2006年

平田 茂樹・遠藤 隆俊・岡 元司共編『宋代社会の空間とコミュニケーション』、汲古書院、410頁、2006年

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

平田 茂樹 (HIRATA SHIGEKI)

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：90228784

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

中村 圭爾 (NAKAMURA KEIJI)

大阪市立大学・副学長

研究者番号：00047382

井上 徹 (INOUE TORU)  
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：20213168

松本 保宣 (MATSUMOTO YASUNOBU)  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：00351312

久保田 和男 (KUBOTA KAZUO)  
長野工業高等専門学校・一般科・教授  
研究者番号：60311023

山崎 覚士 (YAMAZAKI SATOSHI)  
仏教大学・文学部・准教授  
研究者番号：40419685

〔海外研究協力者〕

曹 家齐 (CAO JIAQI)  
中山大学・歴史学系・教授

范 金民 (FAN JINMIN)  
南京大学・歴史系・教授

陳 春声 (CHEN CHUNSHENG)  
中山大学・歴史学系・教授

吳 松弟 (WU SONGDI)  
復旦大学・歴史地理研究所・教授

劉 志偉 (LIU ZHIWEI)  
中山大学・歴史学系・教授